

# 八ヶ岳の自然、人、技、歴史が織りなす

## やさしさと活力あるまち

### 【将来像に込めた思い】

茅野市は、八ヶ岳連峰を代表する雄大な自然に抱かれて縄文時代以来の長い歴史を歩んできました。長い時間（とき）をかけて培われた、「自然との共生」、「人と人とのつながり」、「生きる糧となる産業」、「縄文文化や代々引き継がれてきた伝統」は、私たち茅野市民の誇りであり、財産です。

これから先の日本は、そして、茅野市は、いまだかつて体験したことのない人口減少・少子高齢社会へ進んでいきます。そういった時代においては、これまで培ってきた誇りや財産を次世代に残しつつ、まちの営みを構成する様々な要素を組み合わせ、紡いでいくことが、暮らしやすく、より住み心地の良いまちを形づくっていきます。そして、そうした「まち」には、やさしさと活力が満ち溢れています。

そこで、第5次茅野市総合計画で目指すべき将来像を上記のように決めました。

### それぞれの言葉に込められた意味

「八ヶ岳の自然」…茅野市の誇れる象徴

「人」…人と人とのつながり、コミュニティの絆、支え合い、ひとづくり、「まち」の基礎的要素

「技」…産業、稼ぎ出す、活力の源

「歴史」…縄文文化、伝統、生活様式、文化

「織りなす」…複数の要素を組み合わせ、優れた全体像を成す

「やさしさ」…人間が生きていくために必要なこと、支え合い、品位、パートナーシップのまちづくり

「活力」…雇用の創出、市民の誇り、新たなことを産み出す、人口減少に立ち向かう

※将来像のうち「やさしさと活力あるまち」の部分については、総合計画審議会でも様々な意見が出たところであり、「支え合いのまち」や「文化の香り高いまち」が良いといった意見がでました。現時点では、「やさしさと活力あるまち」としてはいますが、第5次茅野市総合計画策定全体ミーティング等での意見を踏まえ、最終案を決めていきます。

## 【参考】

### 茅野市民憲章

わたくしたちの茅野市は、八ヶ岳連峰に象徴される美しい自然に恵まれ、縄文文化以来の長い歴史をもつ、未来に羽ばたく青年都市です。

わたくしたちは、先人の努力に培われた伝統を受けつぎ、茅野市民としての誇りと責任をもち、人間性豊かな、明るく活力あるまちづくりをめざし、市民の総意によりこの憲章を定めます。

わたくしたちは、

- 1 恵まれた自然を大切にし、環境をととのえ、美しいまちをつくります。
- 1 すすんで協力しあい、心のふれあう、あたたかなまちをつくります。
- 1 教育に力をそそぎ、郷土を愛し、文化の香りたかいまちをつくります。
- 1 働くことに誇りと喜びをもち、活気ある豊かなまちをつくります。
- 1 心身をきたえ、健康で、明るく住みよいまちをつくります。

昭和57年7月1日 制定